

高知県感染症発生動向調査（月報）

2021年11月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail : 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第44週(11月1日～)から第47週(～11月28日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における11月の上位6疾患の合計は26.18で10月の23.33と比べて増加した。同じ11月では、過去10年間では2020年の15.41に次いで2番目に少なく(例年40～60台)、対新型コロナの感染予防対策により日常的感染症は今なお抑制されている。

1位は感染性胃腸炎で13.76(10月1位9.30)と10月に比べて増加した。2位は手足口病で6.02(同2位6.38)、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で2.12(同4位2.01)といずれも横ばいだった。4位はヘルパンギーナで1.86(同3位2.64)と減少した。5位は突発性発疹で1.42(同6位1.43)と横ばい、6位はRSウイルス感染症で1.00(同5位1.57)と減少した。

<新型コロナウイルス感染症 COVID-19>

11月26日、WHOは、南アフリカで検出されたオミクロン株(○株)を『懸念される変異株(VOC: Variant Of Concern)』に指定した。12月2日までに日本でも入国した外国人2名から○株が検出され、あっという間に全世界に拡がろうとしている。南アフリカではワクチン接種率が24%と低いが、1か月間で主たる流行株がこの株に入れ替わったという。猛威を振るった変異株、α株とδ株は、強い感染力や重症度が問題となった。○株については、再感染(一度COVID-19に罹った者が再感染)しやすいとされるが、感染力や重症度については目下不詳である。

世界の患者数は、図1左に示すように、12月1日には2億7千万人にせまり、死亡者は521万人を超えた。患者数を国別で比較すると、1位米国(4,855万人、人口あたりの感染率14.76%、11月も平均して8万人/日以上が新規感染している)、2位インド(3,458万人、感染率2.53%)、3位ブラジル(2,209万人、感染率10.47%)、4位英国(1,028万人、感染率15.79%)、5位ロシア(946万人、感染率6.49%)、6位トルコ(879万人、感染率10.54%)、7位フランス(777万人、感染率11.52%)、8位イラン(611万人、感染率13.66%)、9位ドイツ(592万人、感染率9.78%)、10位アルゼンチン(533万人、感染率10.59%)である。

日本の患者数を図1右に示す。4月～6月はα株(英国型変異株)、7～8月はδ株(インド型)の流行による患者急増がみられた。9月以降は増加がゆるやかになっており、ワクチン接種の効果と思われる(11/28の時点で全国では全人口の84.5%が2回の接種を受けた、表3)。しかし、予防接種が進んでいる韓国や、欧州での優等生といわれるドイツでも再度流行がみられている。○株出現もあり、このまま流行が終息することはないという前提に立って、3回目の接種が12月から計画されている。12月1日時点の国内感染者は1,727,304人(11月は平均して150人/日の増加)、死亡者は18,360人となった。

COVID-19は高齢者ほど重症化しやすい。各年齢層の死亡率は、80代以上14.4%、70代5.4%、60代1.6%である。ワクチン接種者と未接種者とで死亡率に差があるのかなどの解析結果はまだ公表されていない。経時的な年齢層別患者数を図2Aに、11月23日時点で累積感染者数が人口に占める割合を図2Bに示す(総務省統計局作成の2021年8月現在人口推計を用いて算出<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202108.pdf>)。感染者の割合は、20歳代が最大で3.28%(100人あたり3.28人が感染)、次いで30代の2.03%、10代1.60%、40代1.47%、50代の1.26%と続く。80代以上は0.63%で、70代の0.48%よりも高い。10代が1.60%、10歳未満が0.98%である。すでに米国では5歳～11歳の学童への接種が開始されたが、わが国でも議論が始められた。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	44週	45週	46週	47週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		2.67	3.21	3.83	4.05	13.76
2	手 足 口 病		1.52	1.39	1.70	1.41	6.02
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.51	0.54	0.57	0.50	2.12
4	ヘルパンギーナ		0.52	0.47	0.47	0.40	1.86
5	突 発 性 発 疹		0.37	0.36	0.35	0.34	1.42
6	RS ウ イ ル ス 感 染 症		0.25	0.25	0.25	0.25	1.00

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の11月の上位6疾患の合計は12.23で10月の12.25比べて横ばいで、全国よりも少なかった。同じ月で比べると2カ月連続で、過去10年間で最少であった。

1位は感染性胃腸炎で7.04（10月1位4.46）と減少した。2位は突発性発疹（同3位1.28）とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同4位1.25）が同数1.64で並び、いずれも10月よりも増加した。前者は全国よりも多く、後者は全国よりも少なかった。4位は咽頭結膜熱で0.93（同8位0.30）と増加し全国よりも多かった。5位は手足口病で0.65（同2位3.39）と減少し全国よりも少なかった。6位は流行性角結膜炎で0.33（同6位0.66）と減少し、全国よりも少なかった。

<新型コロナウイルス感染症 COVID-19>

高知県におけるCOVID-19の月別患者数を図3に示す。東京五輪とともに急増し8月の集計は1,382人に昇り、8月25日には、県の1日最多の111人を記録した。9月は632人と減少に転じ、10月は64人、11月は2人と減少し、11月12日を最後に20日間も報告ゼロが続いている。12月2日時点の集計では感染者は4,467人、死亡は33人である。

県の対応ステージは、8月19日に「特別警戒（赤）」から「非常事態（紫）」に引き上げられ、同27日「まん延防止等重点措置」が9月12日まで適応された。患者数の減少を受けて9月22日から「特別警戒（赤）」に、同28日から「警戒（オレンジ）」に、10月11日には「注意（黄）」に引き下げられた。10月18日に再度「警戒（オレンジ）」に引き上げられたが、同26日に「注意（黄）」に、同28日に「感染観察（緑）」となった。11月19日には、コロナによる療養者がおよそ1年振りにゼロとなり、大きな流行となった第5波が終息した。

ワクチン接種は順調に進んでおり、11月28日時点で（表3）、県人口の85.2%が1回目を接種し、83.6%が2回目を受け終わった。65歳以上の89.4%が2回接種を完了し、12-19歳も67.9%が2回接種を終えている。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	44週	45週	46週	47週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		1.57	1.29	2.14	2.04	7.04
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.43	0.50	0.39	0.32	1.64
	突 発 性 発 疹		0.32	0.39	0.43	0.50	1.64
4	咽 頭 結 膜 熱		0.18	0.21	0.43	0.11	0.93
5	手 足 口 病		0.11	0.11	0.29	0.14	0.65
6	流 行 性 角 結 膜 炎		0.00	0.33	0.00	0.00	0.33

図1,2021年12月1日時点でのCOVID-19(厚生労働省HPから)

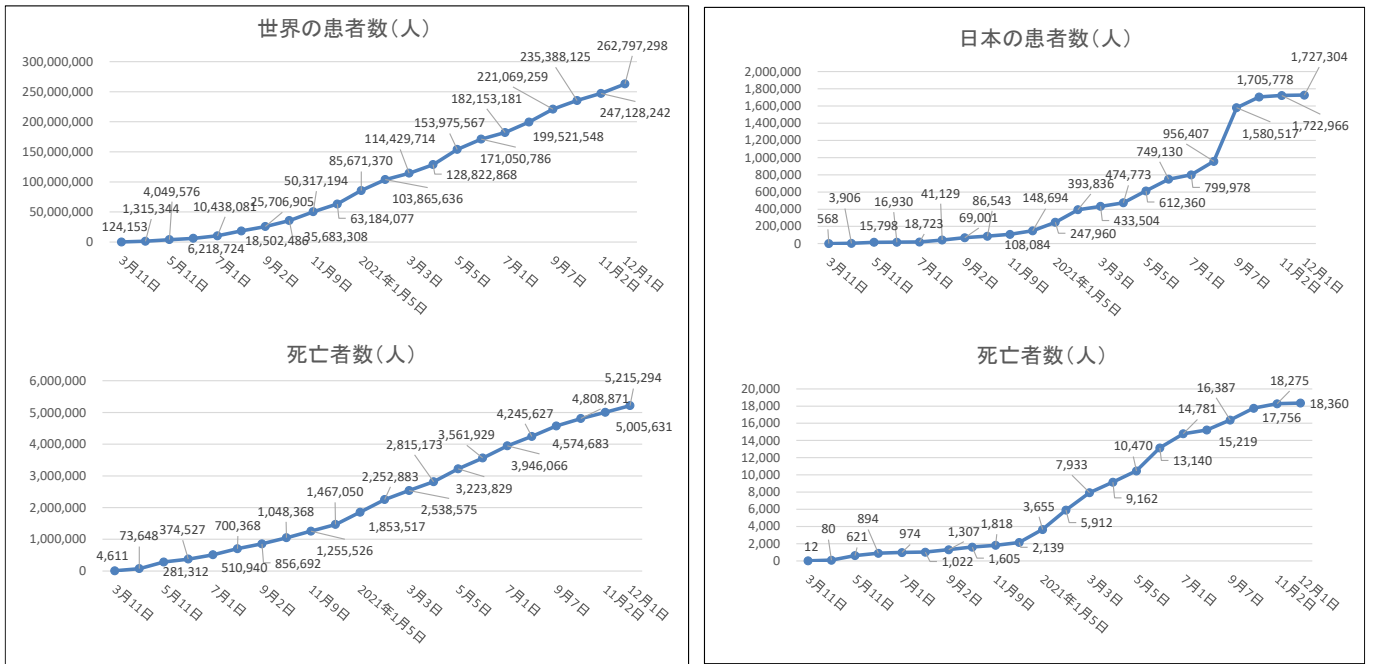


図3A, 経時的な年齢層別感染者数

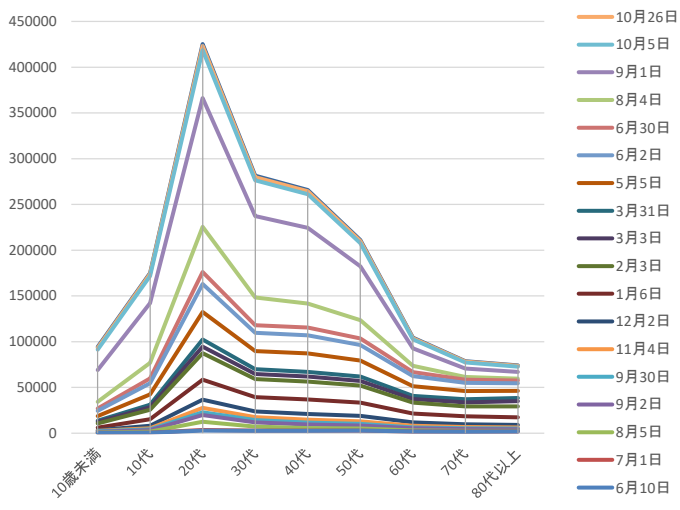


図3B, 年代階層別感染者割合 (2021/11/23時点)

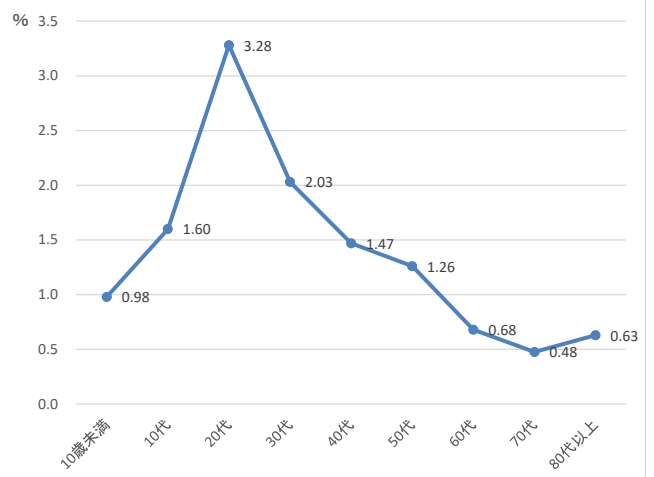


図4.高知県のCOVID-19月別患者数 ~2021年12月1日

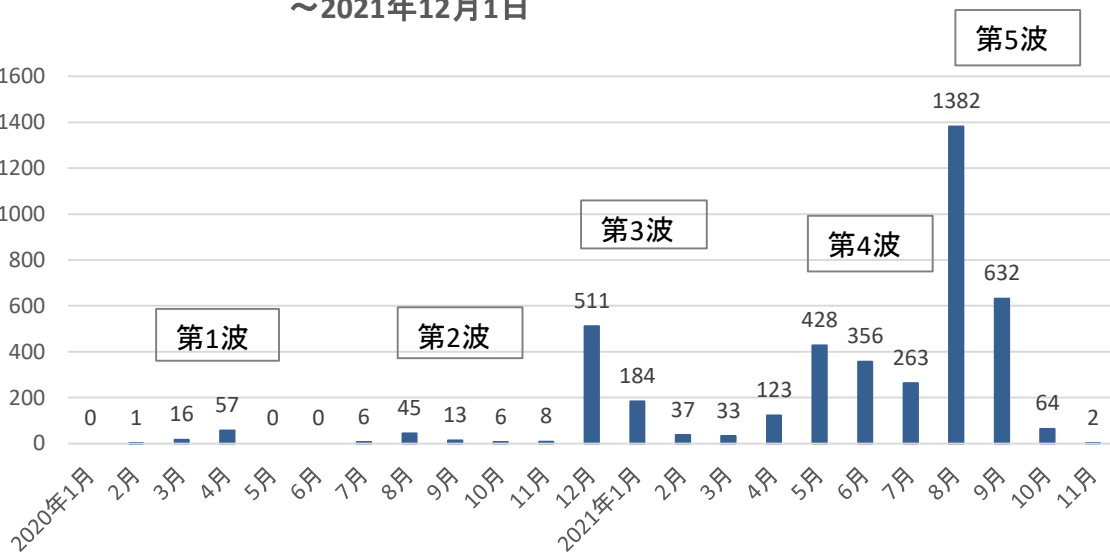


表3 高知県における年代別コロナワクチン接種率（11月28日時点）

	1回目	2回目
全国	86.6%	84.5%
県全体	85.2%	83.6%
65歳以上	90.1%	89.4%
60～64歳	86.8%	86.1%
50代	85.6%	84.6%
40代	79.4%	78.2%
30代	74.3%	72.5%
20代	73.5%	71.1%
12～19歳	70.5%	67.9%

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告なし。COVID-19流行による衛環研の業務増大のため、感染症発生動向調査としての他の病原体を検出する事業を休止していたが、11月から再開した。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名（10月 0名）。2020-21年シーズンは流行がなく、これは統計がある1998年以降で初であった。対新型コロナの感染対策とインフルエンザワクチン接種の徹底によるものだったと推測される。

2) 咽頭結膜熱

報告数 26名（10月 8名）。この時期としては標準的な数である。幡多、須崎、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。11月にはアデノウイルスは検出されていない。2020年12月と本年3月に採取され保存された腸重積の乳幼児便検体からAdenovirus C種（遺伝子型）が検出されている。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 46名（10月 35名）。この時期として過去10年間で最少の報告であった。中央西以外の県下全域から報告があり、幡多、須崎が特に多かった。細菌としては、10/16に採取された急性糸球体腎炎の11歳男子の咽頭ぬぐい液から*Streptococcus pyogenes* Untypableが1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 197名（10月 125名）。ノロウイルス流行で5月は増加したが、その後、減少しており、10月は同時期として過去10年で最少、11月は2020年に次いで2番目の少なさだった。県下全域から報告され、高知市、須崎、中央東が特に多かった。感染性胃腸炎の1歳児から5/14に採取した便からNorovirus GⅡが検出された。

5) 水痘

報告数 8名（10月 9名）。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。10月と11月は過去10年で最少であった。高知市で4名、中央西で2名、幡多と安芸から各1名が報告された。

6) 手足口病

報告数 18名（10月 95名）。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であった。10月をピークとした流行が年を越えてだらだらと続いていた。2021年は、7月から増加を続けたが10月から減少に転じ終息に向かっている。中央西以外から報告され、特に多かったのは、幡多、須崎、安芸である。ウイルスは、6月19日に採取された手足口病の1歳児のぬぐい液からCoxsackievirus A6が1件検出されている。

7) 伝染性紅斑

報告数 4名（10月 3名）。2020年9月以降は1けたの報告数である。高知市、中央東から各2名が報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 46名 (10月 36名)。想定内の変動である。

9) ヘルパンギーナ

報告数 7名 (10月 34名)。2020年は遅れて流行し10月をピークにその後だらだらと続いた。2021年は5月に流行が始まり、同時期としては過去10年で最多で早い流行を迎えた。6月、7月となだらかに増加して平年並みの流行規模に落ち着き、8月は減少、9月は再度増加したが10月以降減少し終息に向かっている。須崎、高知市、幡多、中央東から表記の順に多く報告があった。流行ウイルスは特定されていない。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 1名 (10月 0名)。1桁の少ない数で推移している。高知市から1名報告された。

11) RSウイルス感染症

報告数 1名 (10月 1名)。2020年は3月以降減少し、本来の流行期である11月～3月は異例のゼロが続いた。2021年は、5月57名、6月395名、7月1,543名と急増した。8月は1,013名と減少に転じ、9月は193名、10月11月は1名と収束した。季節外れの爆発的流行であり、とくに7月は、年間報告数(過去10年間の平均値1,114名)を1か月の報告数が上回った。まる1年間RSウイルスの流行がなかったことで、免疫のないウイルス感受性児が蓄積されて、大きな流行になったと推測される。7/8に3歳児から、8/16に1歳児から採取された鼻汁から、いずれもRespiratory syncytial virus Aが検出されており、今年の流行はこのA型のRSウイルスであったと推測される。

12) 流行性角結膜炎

報告数 1名 (10月 2名)。高知市で1名が報告された。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名 (10月 0名)。年間に10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名 (10月 0名)。従来は年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も2名と少数で推移している。

15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名 (10月 0名)。2020年11月以降は、同時期として過去10年間で最少の報告数が続いている。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 25名 (10月 26名)。平年並みである。安芸、幡多、高知市から表記の順に多く報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名 (10月 0名)。2020年1月以降は発生がない。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和3年11月）

類型	病名	報告月											総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
2	結核	1	5	6	7	3	4	5	6	8	3	4	52
4	重症熱性血小板減少症候群		2			1	1						4
	つつが虫病											1	1
	日本紅斑熱			1	2	2	3	1		2	3	2	16
	レジオネラ症						3	1	1	2		1	8
5	アメーバ赤痢										1		1
	ウイルス性肝炎	1											1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1			1		1	1					4
	急性脳炎							1					1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1		1			1				1	5
	侵襲性インフルエンザ菌感染症										1		1
	侵襲性肺炎球菌感染症	1		2	1	1	2			1			8
	水痘(入院例に限る)							1		1		1	3
	梅毒	8	4	4	6	8	13	6	10	14	6	7	86
	破傷風	1											1
	百日咳						1			1			2
	総計	14	12	13	18	15	28	17	17	29	14	17	194

高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

2021年

11月

定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ										
小児科	咽頭結膜熱		1	5		4	16	26	8	8	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	4	17		5	17	46	35	66	
	感染性胃腸炎	6	41	98	15	17	20	197	125	138	
	水痘	1		4	2		1	8	9	28	
	手足口病	2	1	5		2	8	18	95	150	
	伝染性紅斑		2	2				4	3	1	
	突発性発疹	1	6	21	6	6	6	46	36	35	
	ヘルパンギーナ		1	4		1	1	7	34	63	
	流行性耳下腺炎			1				1		5	
	RSウイルス感染症					1		1	1		
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			1				1	2		
STD	性器クラミジア感染症			3				3	2	3	
	性器ヘルペスウイルス感染症								1		
	尖圭コンジローマ		1					1			
	淋菌感染症								1	1	
基幹	細菌性髄膜炎										
	無菌性髄膜炎									1	
	マイコプラズマ肺炎									3	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									1	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)										
	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	10		12			3	25	26	15	
	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌 感染症									1	
計		23	57	173	23	36	72	384	379	518	
前月		12	45	179	21	32	90				
前年同月		24	74	266	20	19	115				
小児科定点数		2	7	9	3	2	5				

高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

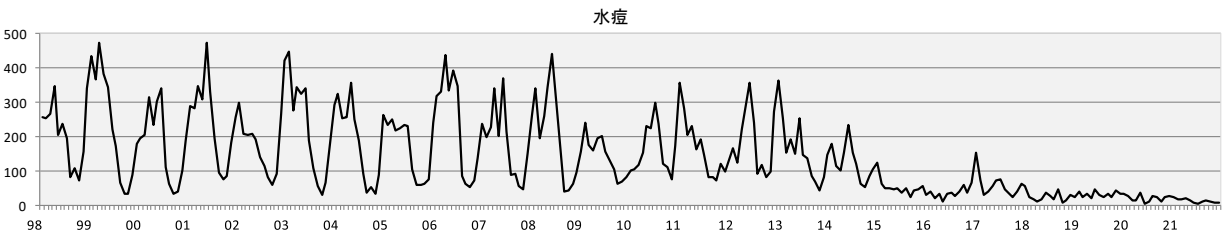
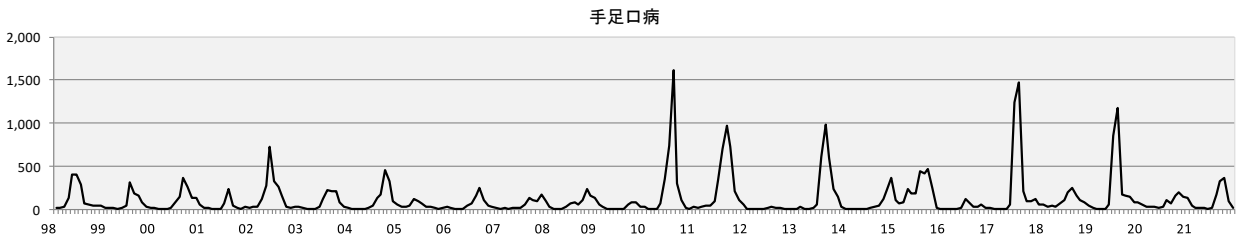
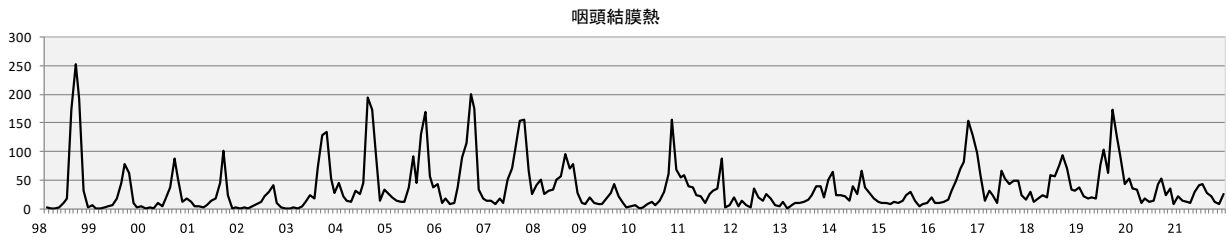
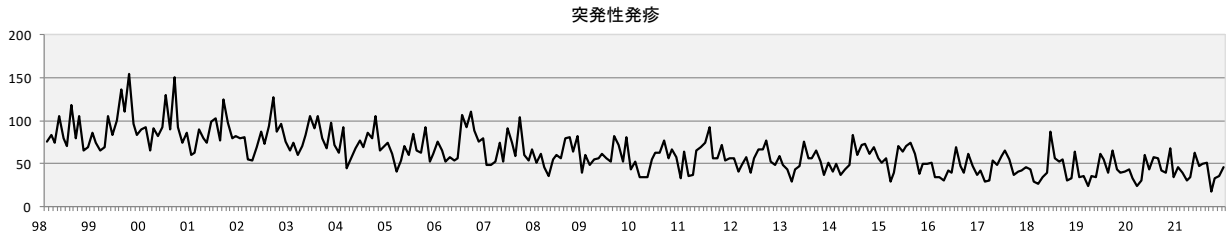
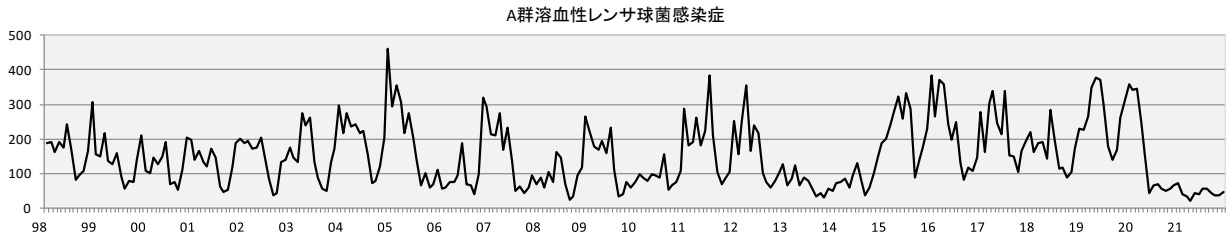
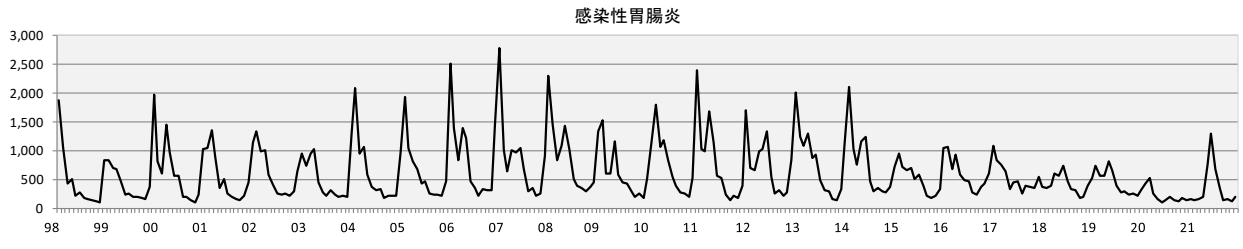
2021年

11月

定点当たりの人数

定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ										
小児科	咽頭結膜熱		0.14	0.55		2.00	3.20	0.93	0.30	0.29	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	0.58	1.88		2.50	3.40	1.64	1.25	2.36	
	感染性胃腸炎	3.00	5.86	10.89	5.00	8.50	4.00	7.04	4.46	4.92	
	水痘	0.50		0.44	0.67		0.20	0.29	0.33	1.01	
	手足口病	1.00	0.14	0.55		1.00	1.60	0.65	3.39	5.36	
	伝染性紅斑		0.28	0.22				0.15	0.11	0.04	
	突発性発疹	0.50	0.87	2.34	2.01	3.00	1.20	1.64	1.28	1.25	
	ヘルパンギーナ		0.14	0.44		0.50	0.20	0.25	1.21	2.24	
	流行性耳下腺炎			0.11				0.04		0.18	
	RSウイルス感染症					0.50		0.04	0.04		
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.66		
STD	性器クラミジア感染症			1.50				0.50	0.33	0.50	
	性器ヘルペスウイルス感染症								0.17		
	尖圭コンジローマ		0.50					0.17			
	淋菌感染症								0.17	0.17	
基幹	細菌性髄膜炎										
	無菌性髄膜炎									0.13	
	マイコプラズマ肺炎									0.39	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0.13	
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)										
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10.00		2.40			3.00	3.13	3.25	1.88	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症								0.13		
小児科定点分計		6.50	8.01	17.42	7.68	18.00	13.80	12.67	12.37	17.65	
前月		5.50	5.99	17.08	6.97	16.00	17.20				
前年同月		12.00	9.85	27.45	6.66	9.50	23.00				

注目される疾患別月別推移



高知県感染症情報(月報)
2021年11月

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

11月はウイルス 70件の搬入があり、そのうちウイルス 13件の病原体を検出し、また、2021年10月に搬入された検体で細菌 1件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adenovirus C 2件、Coxsackievirus A6 1件、Cytomegalovirus 1件、Human herpes virus 6 1件、Norovirus GII NT 1件、Respiratory syncytial virus A 2件、Rhinovirus 5件であった。また、細菌の内訳は、*Streptococcus pyogenes* Untypable 1件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1	男	腸重積症	嘔吐,腹痛,	ふん便	2020/12/27	Adenovirus C
2	6か月	女	腸重積症	嘔吐,	ふん便	3/21	Adenovirus C
3	1	女	インフルエンザ様疾患	40℃,肺炎,	鼻汁	4/23	Rhinovirus
4	1	男	感染性胃腸炎	38℃,下痢,	ふん便	5/14	Norovirus GII NT
5	1	女	手足口病	40℃,水疱,	ぬぐい液	6/19	Coxsackievirus A6
6	14	女	咽頭結膜熱	39℃,発疹,結膜炎,	ぬぐい液	6/23	Human herpes virus 6
7	2	男	インフルエンザ様疾患	40℃,咳嗽,下気道炎,	鼻汁	6/29	Rhinovirus
8	3	女	インフルエンザ様疾患	40℃,	鼻汁	7/8	Respiratory syncytial virus A
9	1	女	インフルエンザ様疾患	39℃,気管支炎,	鼻汁	8/16	Respiratory syncytial virus A
10	3	男	肺炎	38℃,肺炎,	ぬぐい液	8/30	Rhinovirus
11	1	女	不明発疹症	39℃,下痢,咳嗽,発疹,	ぬぐい液	9/1	Cytomegalovirus
12	1	女	不明熱	39℃,	ぬぐい液	9/10	Rhinovirus
13	8か月	男	気管支炎	38℃,咳嗽,上気道炎,下気道炎,気管支炎,	鼻咽頭ぬぐい液	10/5	Rhinovirus
14	11	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃,上気道炎,腎機能,	ぬぐい液	10/16	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2020年												2020年総	2021年		2021年総
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		10月	11月	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable														1		1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1		1												1		
	計		1												1	1	1
インフルエンザ	Adenovirus 1		1												1		
	Influenza virus A H1pdm09		27	9											36		
	Influenza virus B /Victoria		3	4	1										8		
	Herpes simplex virus 1		1												1		
	Rhinovirus		1												1		
	計		33	13	1										47		
咽頭結膜熱	Adenovirus 1												1		1		
	Adenovirus 3		1												1		
	Human herpes virus 6															1	1
計		1										1		2	1	1	
感染性胃腸炎	Coxsackievirus B5		1												1		
	Norovirus GI NT				1										1		
	Norovirus GII NT		2	7	1										10		1
	Rotavirus group AG9			1											1		
	Rhinovirus			1							1	1			3		
	Sapovirus genogroup unknown			1											1		
計		3	10	2						1	1			17		1	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A4												2		2		
	Coxsackievirus A10												1		1		
	計												3		3		
手足口病	Coxsackievirus A6																1
	Coxsackievirus A16		13	1	1			5	1	6	3	3	1		34		
	Rhinovirus										2				2		
	計		13	1	1			5	1	6	5	3	1		36		1
流行性角結膜炎	Adenovirus 2																
	計																
伝染性紅斑	Human herpes virus 6			1											1		
	Human herpes virus 7		1	1											2		
	Human parvovirus B19		1												1		
	計		2	2											4		
流行性耳下腺炎	Mumps virus		2	3											5		
	Rhinovirus										1				1		
	計		2	3							1				6		

